

跳跳蛙 日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 **2** **5** いっ きゅう 一休さん



NPO法人 日本語多読研究会 主编
(日) 山崎 俱子 / 松田 绿 改编
东 真人 插图

跳跳蛙
日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 2⑤

いっ きゅう
一休さん

NPO法人 日本語多読研究会 主编
(日) 山崎 俱子 / 松田 绿 改编
东 真人 插图

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01 - 2008 - 1937

© Originally Published by ASK Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

跳跳蛙日语读库. Vol.1. 2⑤ / 日本NPO法人日本語多读研究会主编. — 北京:
外语教学与研究出版社, 2008.5
ISBN 978 - 7 - 5600 - 7521 - 1

I. 跳… II. 日… III. 日语—自学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 064627 号

出 版 人：于春迟

责任编辑：唐晓艳

装帧设计：王 军

出版发行：外语教学与研究出版社

社 址：北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址：<http://www.fltrp.com>

印 刷：北京国邦印刷有限责任公司

开 本：880×1230 1/32

印 张：0.875

版 次：2008 年 7 月第 1 版 2008 年 7 月第 1 次印刷

书 号：ISBN 978 - 7 - 5600 - 7521 - 1

定 价：27.90 元 (全五册)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话：(010)88817519

物料号：175210001

日本語を勉強しているみなさんへ

「ごほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

わかるものをたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「ごほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

一休和尚（一三九四〜一四八一年）

日本人は「一休さんの話」が大好きです。「一休さんの話」は、江戸時代（一六〇三〜一八六八年）の頃から人気がありました。この「一休さん」は、本当にいたのでしょうか。

「一休」というお坊さんは本当にいました。京都で生まれて、八十八歳で死にました。京都府の南にある、京田辺市の寺（酬恩庵）に墓があります。天皇の子どもとして生まれて、六歳の時に安国寺に入って、お坊さんになる勉強をしました。若い時から詩や字を書くことが上手でした。ちよつと変わった人で、おもしろいことをたくさんしました。

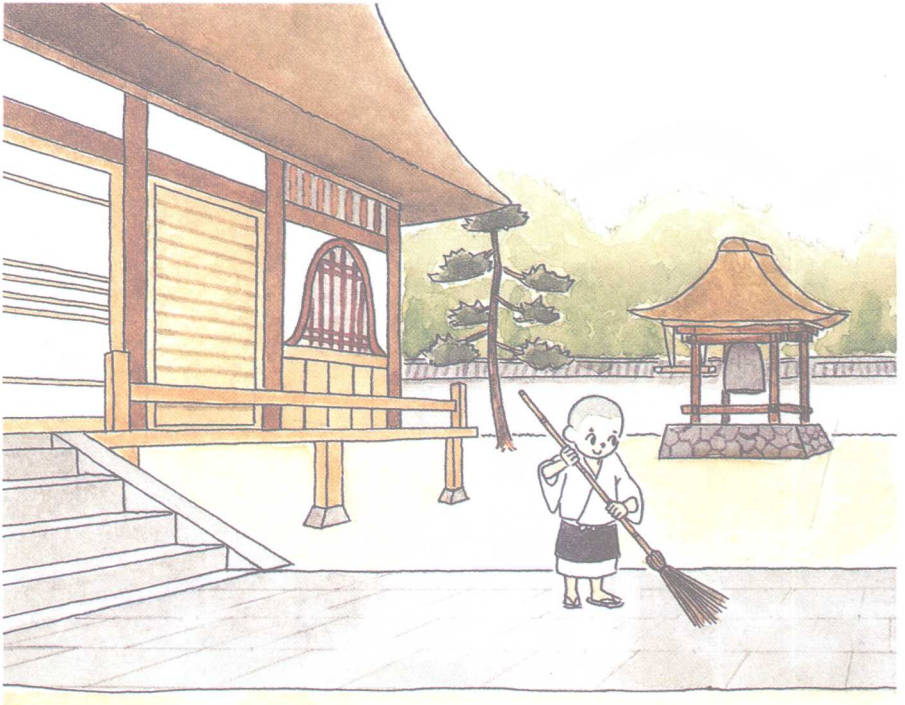
「一休さんの話」はたくさんあります。でも、その中には、一休さんがしたことではない話も入っています。日本のあちこちで頭のいいお坊さんがしたおもしろいことが、たくさん集まって、「一休さんの話」になったのです。



いっせゆう おしろう しゅうおんあんしよざう
一休和尚 (酬恩庵所蔵)

いっせゆう じ しゅうおんあんていせゆう
一休寺 (酬恩庵提供)





せんさんびやくきゅうじゅうよねん ひとり おとこ
一三九 四年、京都に一人の男の子が生まれました。一休さんです。

いっしきゅう 六歳のとき、寺に入りました。寺は、お坊さんが住んでいる建物です。

ぼう お坊さんは、仏教を教える人です。

いっしきゅう 一休さんは、有名なお坊さんたちに、仏教や勉強を教えてもらいました。そして、

ぼう お坊さんになりました。

いっしきゅう 一休さんは、小さいときから、とても頭がいい子どもでした。

おとな 大人が答えることができない難しい問題にも、すぐ答えることができました。

おもしろい話をたくさんしました。

さあ、一休さんは、どんなことをしたり、話したりしたのでしょう。

おいしい菓くすり

一休いっしゅうさんは、子どもこのとき、安国寺あんこくじで勉強べんきょうしていました。

寺てらで一番上いちばんうえのお坊さんぼうさんを「おしょうさん」と言いいます。若わかいお坊さんぼうさんたちの先生せんせいです。

ある日ひ、一休いっしゅうさんが、おしょうさんの部屋へやの前まえに来くると、部屋へやの中なかから小ちいさい音おとが

聞きこえました。

——あ、またおしょうさまなが何かなを食たべている——

一休いっしゅうさんは、静しずかに部屋へやの中なかを見みました。すると、おしょうさんが一人ひとりで何かなを

食たべていました。

一休いっしゅうさんは言いいました。

「おしょうさまな、何なを食たべているんですか」

おしょうさんはびっくりして、



いっきゅう
一休さんを見ました。

「い、こ、これは、……く、薬くすりです

よ。足あしの薬くすりです。私わたしは、おじいさん

ですから、足あしが痛いたいんです」

「え、足あしの薬くすりですか。私わたしにもその薬くすり

をください。私わたしも、足あしが痛いたいんです」

「え、それはできません。

これは、おじいさんの薬くすりです。

若い人わかひとが食たべると死しにますよ」

と言いって、おしろうさんは、

薬くすりの入れ物いものを机つくえの下したに入いれました。

「それは大変。私は死にたくないです」

そう言う^いと、一休^{いっきゅう}さんは、おしょうさんの部屋^{へや}を出^でました。そして、笑^{わら}いました。

それから、三日^{みっか}後^ご、おしょうさんは、隣^{となり}の町^{まち}に行^いきました。

寺^{てら}では、若^{わか}いお坊^{ぼう}さんたちが掃^{そう}除^じをしていました。

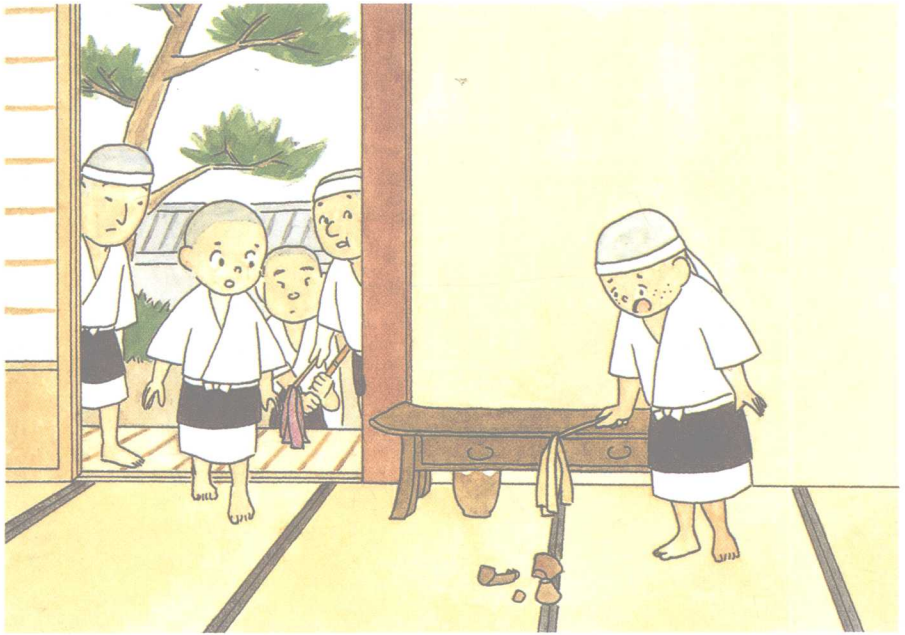
「ガチャン！」

おしょうさんの部屋^{へや}から大^{おお}きい音^{おと}がしました。そして、

「わあー」

と、大^{おお}きい声^{こゑ}が聞^きこえました。みんなびつくりして、おしょうさんの部屋^{へや}へ行^いきました。

そこには、掃^{そう}除^じをしていた上^{じょう}建^{けん}さんが、青^{あお}い顔^{かお}で立^たっていました。



「上建さん、どうしましたか」

みんなが聞きました。

「大変です。これを見てください。」

私は、おしよさまの茶碗を割りました

そう言うと、上建さんは泣きました。

「それは大変だ。困った、困った。」

これは、おしよさまの大切な茶碗だ

若いお坊さんたちは、青い顔で

言いました。

でも、一休さんだけは笑っています。

「みなさん、心配しないでください。大丈夫です。一緒にこれを食べましょう」

そう言うと、一休さんは、机の下から薬の入れ物を出しました。

みんなは言いました。

「それは、何ですか」

「これは、おしよさまの足の薬ですよ」

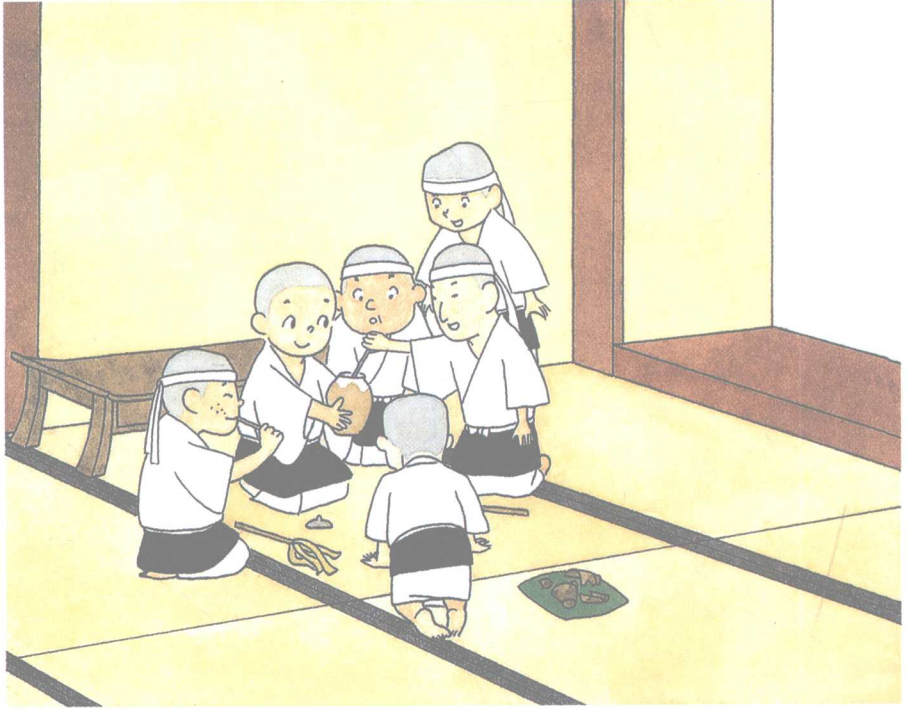
「えっ、足の薬……？ 私たちは足は痛くありません」

一休さんは、笑いながら、その薬を口に入れました。

「甘くておいしいですよ」

「え？ 甘いんですか。じゃあ、私も食べます」

「私も食べます」



わか 若いお坊さんたちは、それを口に入れました。

「あ！ これは、薬ではありませんね。お菓子です」

と、上建さんが言いました。

「そうです。お菓子ですよ。水飴ですよ」

と、一休さんは言いました。

お坊さんたちは、おいしい物や甘い物は、あまり食べません。だから、この水飴をとてもおいしいと思いました。

「おいしい、おいしい。甘い、甘い」

お坊さんたちは、入れ物の中の水飴を全部食べました。

そのとき、おしろうさんが帰^{かえ}ってきました。

上^{じょうけん}建さんが言^いいました。

「あつ！ おしろうさまだ。大^{たいへん}変^だだ」

一^{いつきゅう}休^{きゅう}さんは言^いいました。

「さあ、みんな、大^{おお}きい声^{こゑ}で泣^ないてください」

みんなは泣^なきました。

「わーん」

「えーん」

おしろうさんは、びっくりしました。

「みんな、どうしたんですか」



一休いっきゅうさんが答こたえました。

「おしろうさま、ごめんなさい。この部屋へやを掃除そうじしたとき、おしろうさまの大切たいせつな茶碗ちやわんを割わりました。私わたしたちは悲かなしくなりました。そして、死しにたいと思おもいました。

だから、この薬くすりを食たべたんです。でも死しにませんでした。もっと食たべました。

でも死しにませんでした。全部ぜんぶ食たべました。まだ死しにません。ごめんなさい、ごめんなさい」

「うーむ」

おしろうさんは、何なにも言いうことができませんでした。